

日本海側は、今年記録的な大雪になりました。  
38豪雪や56豪雪を経験した会員の方々は  
長靴の中で溶けた冷たい感覚を覚えているかも知れません。

## ◆ 弁論大会 最優秀賞は、バーレーンのマリアムさんに！

2月5日午後、大阪YMCA国際文化センターにおいて、「第30回 全国 専門学校  
日本語学習外国人留学生 日本語弁論大会」が開催されました。

全専日協の教育研究委員会委員長で今回の弁論大会実行委員長の  
大阪YMCA国際専門学校の 佐藤 裕幸理事長のご挨拶で幕を  
開け、13人のスピーカーが日ごろ鍛えた日本語で、それぞれの  
思いを心を込めて話してくれました。各校の代表として選ばれた  
スピーチだけあって、どのスピーチも聞きごたえ十分、あっとい  
う間の3時間でした。



### <受賞者の皆さん>

最優秀賞 マリアム サイフ アルワイエイ (バーレーン) 外語ビジネス専門学校  
「今まで咲いていない花」

優秀賞 パドレ アン ベアトリス チロル (フィリピン) 文化外国語専門学校  
「80年代へのタイムスリップ」

優秀賞 コーンハーン パンウィパー (タイ) ECC国際外語専門学校  
「夢を実現するためにがんばっている仲間へのエール」

特別賞 チャウ ミン フォン (ベトナム) エール学園  
「アルバイトで見つけた宝物」

特別賞 リュウ コンキン (香港) 大阪YMCA国際専門学校  
「シャッターチャンス！」



最優秀賞を受賞したマリアムさんは、



「日本のアニメをきっかけに、国の大学で日本語を学び始めた。周りにはなぜ日本語？と理解されず、人前で日本語が好きだと言えなくなった時期があったが、日本に留学して学ぶうちに、好きなことは堂々と表現していいと思い直し、将来日本とバーレーンをつなぐ文化親善大使になりたいという夢も生まれた。まだ咲いていないこの大きな夢の花を、必ず咲かせてみせる」

と、身振り手振りも交えて元気いっぱいに語りました。

惜しくも賞を逃したスピーカーの皆さんと審査員の先生方をご紹介します。

ヴィッセンシオ プリンセス マリー ラカル (フィリピン) 大阪バイオメディカル専門学校  
「日本と日本人のおかげで」

ヴェネルグランド ヨハンナ マリア (スウェーデン) 福岡外語専門学校  
「積極的な態度の大切さ」

フェッラーロ ジョルジョ (イタリア) 京都外国語専門学校  
「心の旅、心の声」

ユ ハヨン (韓国) 大阪YWCA専門学校  
「私が思うロリータファッション」

ソウ カゴウ (台湾) 関西外語専門学校  
「日本語のあいまいな表現」

ホン ヨウレン (台湾) 横浜デザイン学院  
「平和の木の実」

ヴ ティ ビック (ベトナム) 保育・介護・ビジネス名古屋専門学校  
「成長した私」

ディン ティ マイ アイン (ベトナム) メディカルエステ専門学校  
「私が感じた、日本の『びっくり』」



<審査員> 蔦 清行 先生 大阪大学 准教授  
中西 泰洋 先生 神戸大学 名誉教授 流通科学大学 客員研究員  
田中 美加 先生 株式会社凡人社

中西先生は講評で全てのスピーチに一言ずつ触れたうえで、「大変レベルの高い大会で、受賞者の決定は大変だった」と話されました。また、蔦先生は「上手で驚いた。これからも日本語の勉強に励んでほしい」、田中先生は「みなさんの気持ちを受け止めるのに必死だった。共感するものが多かった」と話してくださいました。



留学生に司会を担当してもらおうというのがこの大会の伝統のひとつですが、今年の司会は大阪YMCA国際専門学校のカリヒさんとリョウリヨンさんでした。非常に落ち着いた司会ぶりでスムーズに会を進めることができました。また、聴衆の皆さんの惜しみない拍手が会を盛り上げてくれたのも大変心に残りました。聞いていた皆さんからは「一生懸命話す姿に引き込まれた」「アットホームな雰囲気とてもよい会だった」「学生は日本語学習を通して人としても成長していくと再認識した」「大阪や東京以外でもやってみてはどうか」と様々な声があがっていました。

最後に、今回の弁論大会を運営して下さった大阪YMCA国際専門学校、エール学園、大阪YWCA専門学校、関西外語専門学校、京都外国語専門学校の実行委員会の皆様に事務局より、心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



## ◆全学日協 第1回セミナーのテーマは「ICT・AI」

- 全専日協には、一般社団法人 全日本学校法人日本語教育協議会（全学日協）に加盟している各種学校9校が、連携会員として参加しています。「教育力の向上」「情報の共有化」に共鳴し、志を同じくする皆さんです。

その全学日協の記念すべき第1回セミナーが、2月2日（金）東京渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年センターで開催され80名の教職員が参加しました。

- セミナーの冒頭、長沼 一彦代表理事（長沼スクール東京日本語学校 理事長）が挨拶に立ち、

「この協議会は、価値観を同じくする会員が平等に集まれるように作りました。世界の中の日本語の位置づけが変わろうとしている今、テクノロジーの進歩にどう向き合い、教師としての役割をどう創り上げていくのかを考えて頂くために、この第1回のセミナーを開くことにしました。」



と、静かな口調の中にも、日本語教育への情熱を込めて話されました。

- 第1部のテーマは「ICT・AI時代～日本語学校・日本語教師の仕事はこれからどうなるか」

講師 学校法人長沼スクール東京日本語学校  
CIOセンター長 岩藤 誠氏

第2部は 実例報告「日本語学校で活用できるICT」

講師 学校法人江副学園新宿日本語学校  
広報 江副カネル 隆二氏  
IT/教務 井上 智之氏



会場との質疑も含めて、予定の2時間を超える盛況ぶりでした。

- 全専日協の正会員校からも、専門学校足利コミュニティーカレッジ、京都コンピュータ学院鴨川校、中央情報経理専門学校高崎校、保育・介護・ビジネス名古屋専門学校、日本外国語専門学校、外語ビジネス専門学校、文化外国語専門学校の16名が参加させてもらいました。参加者からは「日本語教師がする教育はより深くなる気がする。」といった感想が寄せられています。

2018年2月9日  
全国専門学校日本語教育協会  
ニュースレター担当

